

所属ゼミ	高木研究会	学籍番号	89728423	氏名	小平 滋
(論文題名)					
<p>「異端児」人材 — その組織変革への適用可能性 —</p>					
(内容の要旨)					
<p>本論は、企業の組織変革を成功に導くための人材活用のあり方について、一つの考察を試みたものである。</p> <p>まず文献研究から明らかになったことは、「変革の核」として組織変革に求められる人材が、(1)「異質な価値観」をもつと同時に、かつ(2)「強い信念と変革実行能力」とを兼ね備えている人材である、ということであり、本論ではこれを「異端児」人材と定義した。</p> <p>そのうえで、ある一つの企業に起こった現実の事例の研究をもとに、そうした「異端児」人材を適用することが組織変革において実際に有効性をもつことを確認するとともに、このような人材がマネジメント次第で育成可能なこと、および『「異端児」ライフサイクル』というものが存在することを明らかにしている。なおここでは、「異端児」人材による変革を補完する手段としての電子メールシステムの果たす役割についても特に言及した。</p> <p>これらのことを受け、企業が持続的な変革を実現するためには、組織としてこの「異端児」人材ライフサイクルを繰り返すことが必要であり、変革に対するトップの明確なビジョンの下、(1)『「異端児」人材を次々と育成していく仕組みづくり』と(2)「異質な意見を認めて彼らを異端視せずに反発から保護し、むしろ活用することを良しとするような風土づくり」とを同時に推進すべきである、との提言を最後に行っている。</p>					